



NetVault Backup アップグレードガイド

バージョン 9.2 / 10.x から 11.0 への移行

目次

概要	3
はじめに	3
NetVault Backup について	3
NetVault Backup 11 の新機能	3
NetVault 11 へのアップグレードをお勧めする理由	3
エンタープライズクラスのスケーラビリティ	4
パフォーマンスの向上	4
新しいレポート機能	4
バージョン比較	5
Windows 関連の要件	5
MS Visual C++ 2010 SP1 の必要性	5
Linux 関連の要件	6
適切な Linux 版インストールパッケージの選択	6
推奨事項	6
NetVault Backup 11 ソフトウェアの要件	7
アップグレードの最小要件	7
アップグレード前の留意点	7
NetVault サーバのアップグレード手順	7
NetVault 10 データベースのバックアップ	8
NetVault 9.2 データベースのバックアップ	9
Windows 版 NetVault Backup サーバのアップグレード	11
Linux 版 NetVault Backup サーバのアップグレード	18
NetVault クライアントのアップグレード	21
Windows を対象とした NetVault Client のプッシュインストール	22
Windows を対象とした NetVault クライアントのアップグレード	25
Linux を対象とした NetVault クライアントのアップグレード	27
NetVault データベースの保護	28
NetVault Backup 11 WebUI への接続	28
default アカウントにパスワードを設定する方法	29
その他のユーザ管理オプション	31
まとめ	31
Dell Software について	31

※本資料は英語資料の翻訳で NetVault 製品の操作画面はオリジナル（英語 GUI）を採用しています。



概要

Dell Data Protection | NetVault™ Backup を活用すれば、IT 環境全体のバックアップとリカバリがシンプルになり、お客様にとって必要不可欠なアプリケーションとデータベース、たとえば Oracle、SQL Server、Exchange、SharePoint、MySQL、DB2 などの高可用性も円滑に維持できるようになります。NetVault Backup バージョン 11 では、新しい Web ベースのユーザインタフェースのみならず、スケーラビリティとパフォーマンスを向上する画期的な強化機能がいくつも追加されました。本書ではこれらの新機能や機能強化をご紹介しますと共に、詳細なシステム要件と NetVault Backup バージョン 9.2/10.x からバージョン 11.0 へのアップグレード手順について解説します。

はじめに

NetVault Backup について

NetVault Backup は物理・仮想の両環境にあるデータとアプリケーションを、1つの使いやすい Web ベースのユーザインタフェースから一元的に保護することができます。IT 環境全体のバックアップとリカバリをシンプルにする本ソリューションなら、Oracle、SQL Server、Exchange、SharePoint、MySQL、DB2 を始めとする基幹系アプリケーションおよびデータベースの高可用性確保に役立ちます。さらに、Dell DR 重複除外アプライアンスを含む柔軟なストレージオプションにより、既存の IT 資産を有効活用してストレージコストを節約することも可能です。

NetVault Backup 11 の新機能

- **Web 対応インタフェースを通した Windows エージェントのプッシュインストール**：数百台に及ぶ Windows クライアントでも、NetVault 11 ならわずか数クリックで保護機能をリモート導入できます。
- **ファイルシステムプラグインのマルチストリームサポート**：ファイルシステムのバックアップジョブがマルチストリーム対応となりました。これは NetVault Backup 11 に加えられた重要な機能の 1 つであり、バックアップ性能の飛躍的向上に貢献します。
- **新しいレポート機能**：日々の管理業務を効率化する新しいレポート（ジョブ、メディア、構成レポート）が追加されました。
- **Linux UI 要件の撤廃 (x11 不要)**：Linux/Unix 版 NetVault クライアントに、もはや x11/Xorg をインストールする必要はありません。これにより NetVault クライアントは、はるかに軽量の「コマンドラインのみ」の Linux/Unix インストールで保護できるようになりました。
- **RDA Solaris クライアント**：NetVault 11 エージェントは今や RDA プロトコルを通して DR アプライアンスに直接バックアップできます。
- **Dell DR Rapid Data Access (RDA) および EMC DD Boost**：これらを対象とした最新版ライブラリアップデートを提供します。



NetVault 11 へのアップグレードをお勧めする理由

エンタープライズクラスのスケーラビリティ

NetVault Backup 11 の Windows 用デプロイメントマネージャは、数百台もの Windows クライアントを容易に一括保護できるため、新規導入時や既存環境の拡張時に効果的です。このデプロイメントマネージャは Microsoft Active Directory を利用してネットワーク内のクライアントを検出し、NetVault 11 を導入することができます。NetVault 9.x/10x の既存クライアントは、ボタンを一回押すだけで簡単に 11.0 にアップグレードできます。

パフォーマンスの向上

NetVault Backup 11 にはマルチストリーム対応のファイルシステムバックアップ機能が加わっており、複数のボリューム、ネットワーク共有、マウントポイントを同時バックアップできるため、ほとんどのケースで性能が向上します。

新しいレポート機能

NetVault Backup 11 にはいくつかの新しいレポートが加わっています。これらのレポートは、NetVault の広大なインストール基盤から寄せられた「現場の声」を活かして開発されました。新しいレポートには次のとおりです。

- **構成**：この新しい構成レポートは、ジョブ定義、デバイス、ユーザの詳細情報を総括したものです。このうちジョブ定義については、バックアップジョブ、リストアジョブ、レポートジョブの各セクションに分類されます。また、該当するすべての関連情報も本レポートに含まれます。
- **夜間ジョブサマリ (機能拡張)**：これは「Overnight Job Summary」ジョブの新規および拡張フォームです。このレポートからは、Successful Overnight Backup Job (成功した夜間バックアップジョブ) など、過去 24 時間以内に収集されたデータが提供されます。
- **テープ返却**：新しい「Tape Return」レポートは、ライブラリに戻されず期限切れになったテープメディアをフィルタリングすることができます。このレポートには、対話型でメディアグループやオフサイト拠点を指定できる、追加のフィルタ機能も含まれます。
- **オフサイト送付用テープ**：新しい「Tape to Send Offsite」レポートは、ライブラリに戻されず期限切れとなり、オフサイトに送付可能となったテープメディアがフィルタリングされます。このレポートには、対話型でメディアグループやオフサイト拠点を指定できる、追加のフィルタ機能も含まれます。



バージョン比較

表 1 : NetVault Backup のバージョン比較

機能	NetVault Backup 9.x	NetVault Backup 10	NetVault Backup 11
ユーザインタフェース	Motif UI	Web ベース	Web ベース
バックアップサーバあたりの最大クライアント数	300	1,000	1,000
NetVault のバックエンドデータベース	シングルスレッドのデータアクセス	高速な並列マルチスレッドアクセスにより、クエリー時間を大幅短縮	高速な並列マルチスレッドアクセスにより、クエリー時間を大幅短縮
高速データアクセス (RDA) のサポート	RDA 2.x のサポート : 最大バックアップスループット = 7.5 TB/時	RDA 3.x のサポート : 最大バックアップスループット = ~22 TB/時	RDA 3.x のサポート : 最大バックアップスループット = ~29 TB/時
データの並列コピー	初期バックアップ時は並列処理、セカンダリコピーは順次処理	初期バックアップおよびセカンダリコピーとも並列処理	初期バックアップおよびセカンダリコピーとも並列処理
モニタリング	バックアップジョブとポリシージョブのステータスを監視	様々なアクティビティを監視 : NetVault Backup システムの全般的なステータス、現在稼働中のジョブ、通常ジョブとポリシージョブのステータス、クライアントからストレージターゲットへのデータ転送など	様々なアクティビティを監視 : NetVault Backup システムの全般的なステータス、現在稼働中のジョブ、通常ジョブとポリシージョブのステータス、クライアントからストレージターゲットへのデータ転送など

* サポートするハードウェアおよびソフトウェアの総覧は、[NetVault Backup Compatibility Guide](#) を参照してください。

Windows 関連の要件

MS Visual C++ 2010 SP1 の必要性

NetVault Backup サーバをインストールする前に、対象システムに Microsoft Visual C++ 2010 SP1 Redistributable Package (x86) をインストールしてください。これがシステム上に存在していないと、インストール処理中に次のエラーが表示されます。

The Program can't start because MSVCR100.dll is missing from your system computer. Try reinstalling the program to fix this problem.

本パッケージは次のパスから入手可能です。

NetVault Backup のインストールフォルダ\netvault\postgres\vc redistrib_x86.exe



Linux 関連の要件

適切な Linux 版インストールパッケージの選択

NetVault Backup はバージョン 10.0 から、Linux 系システム用のインストールパッケージとして、クライアント専用のものでサーバ専用のもを個別提供するようになりました。サーバおよびクライアントの両パッケージとも、ハイブリッドバージョンと 64 ビット専用バージョンがご利用いただけます。

- **ハイブリッド版のサーバ/クライアントパッケージ：**ハイブリッドパッケージ (LinuxX86HybridServer と LinuxX86Hybrid) は、「純粋な 64 ビット限定」という要件が課せられない Linux ユーザを対象としています。これらのパッケージを使えば、純粋な 32 ビット環境や 32/64 ビット混在 (ハイブリッド) 環境の NetVault Backup インストールをアップグレードすることができます。ハイブリッドパッケージでは、32 ビット版と記されたものから 64 ビット用と指定されたものまで、あらゆる旧プラグインとバイナリ互換が保たれています。さらにこれらのパッケージは、64 ビットに未対応の 32 ビットシステム上でも正常に機能します。
- **64 ビット専用のサーバ/クライアントパッケージ：**この純粋な 64 ビット版パッケージ (LinuxX86Pure64Server と LinuxX86Pure64) は、64 ビット限定の Linux ディストリビューションを対象としています。お客様固有の理由により (たとえば 32 ビットコードを実行できない Linux ディストリビューションを使用しているなど)、32 ビットコンポーネントが一切利用できない環境では、これらのパッケージを使用してください。既存の 32 ビット専用またはハイブリッド版の NetVault Backup インストールをアップグレードする場合、この 64 ビット専用パッケージは利用できません。この場合、本パッケージを利用するには、既存の 32 ビット専用またはハイブリッド版を削除し、64 ビット版を別途インストールする必要があります。混乱を避けるため、現在のアップグレードおよびインストールパッケージには、両者が非互換であることを確認する警告メッセージが追加されています。

NetVault Backup サーバまたはクライアントソフトウェアをインストールするときは、表 2 に示すとおり、使用している OS の種類に応じて正しいインストールパッケージを選択してください。

表 2：OS の種類に応じた Linux パッケージ

OS の種類	パッケージ
32 ビットまたは 64 ビットの Linux システム	LinuxX86HybridServer.
32 ビットまたは 64 ビットの Linux システム	LinuxX86Hybrid
64 ビット専用の Linux システム	LinuxX86Pure64Server
64 ビット専用の Linux システム	LinuxX86Pure64

お使いの Linux 版やビルドによっては、他の要件が加わる可能性があります。詳細は、『NetVault Backup インストールガイド』を参照してください。



推奨事項

- **互換性を確認** : <http://www.dellsoftware.com/support> から NetVault Backup 互換対応表を参照して、NetVault Backup の現行リリースがサポートするプラットフォームやオペレーティングシステム／デバイス／アプリケーションのバージョンを確認してください。
- **OS の許可を設定** : ターゲットマシンの OS 上で適切なアクセス権を設定し、ユーザが各種のソフトウェアコンポーネントをインストールできるようにしてください。
- **適切なシステムメモリ容量を確保** : 必要となるシステムメモリ量は利用形態に応じて異なります。NetVault Backup プロセスを実行するのに十分なメモリ量が、サーバおよびクライアントマシンに搭載されていることを確認してください。
- **ウイルス対策ソフトウェアを無効化** : NetVault Backup をインストールまたはアップグレードする前に、ウイルス対策ソフトウェアを無効にしておくようお勧めします。ウイルス対策ソフトウェアは、インストールプロセスと競合する恐れがあり、万が一競合が発生すると、インストール後、NetVault Backup 処理が正常に機能しません。
- **TCP/IP 接続を確認** : NetVault Backup は、サーバとクライアントシステム間の円滑な TCP/IP 接続を必要とします。「名前解決」を利用する場合は、ホスト名から一意の IP アドレスが解決されるようにしてください。
- **ストレージデバイスの接続状態を検証** : 各ストレージデバイスが適切に接続され、正常に機能していることを確認してください。OS から標準提供されている任意のツールを使用し、対象デバイス上で最小限のバックアップ操作を試してみれば確認できます。

NetVault Backup 11 ソフトウェアの要件

アップグレードの最小要件

- NetVault 11 にアップグレードするには、すべての NetVault サーバのバージョンが 9.2 以上である必要があります。
- バージョン 9.x のクライアントであれば、いずれもアップグレード可能です。
- NetVault プラグインは、どのバージョンからでもアップグレードできます。

アップグレード前の留意点

- Windows 版 NetVault インストーラには、サーバとクライアントの両方のバイナリが含まれます。
- Linux の場合は、NetVault サーバとクライアントで別々のインストーラを提供しています。
- 既存のストレージ (例 : SmartDisk、VTL、その他のバックアップターゲット) は、アップグレード前後を通して維持されます。
- 既存のすべてのバックアップセットとジョブは、アップグレード前後を通して維持されます。
- NetVault 11 にアップグレードしても、再起動が必要になるサーバや、再始動が必要になるサービスは一切ありません。
- アップグレードプロセスは簡単迅速なため、通常は数分で完了します。



NetVault サーバのアップグレード手順

NetVault 10 データベースのバックアップ

NetVault Backup 11 へのアップグレードを始める前に、まず、お使いの NetVault 10 データベースをバックアップしておくことが重要です。データベースをバックアップするには、次の手順に従ってください。

1. NetVault Backup 10 コンソールを起動し、[Create Backup Job] (バックアップ ジョブ作成) をクリックします (図 1)。

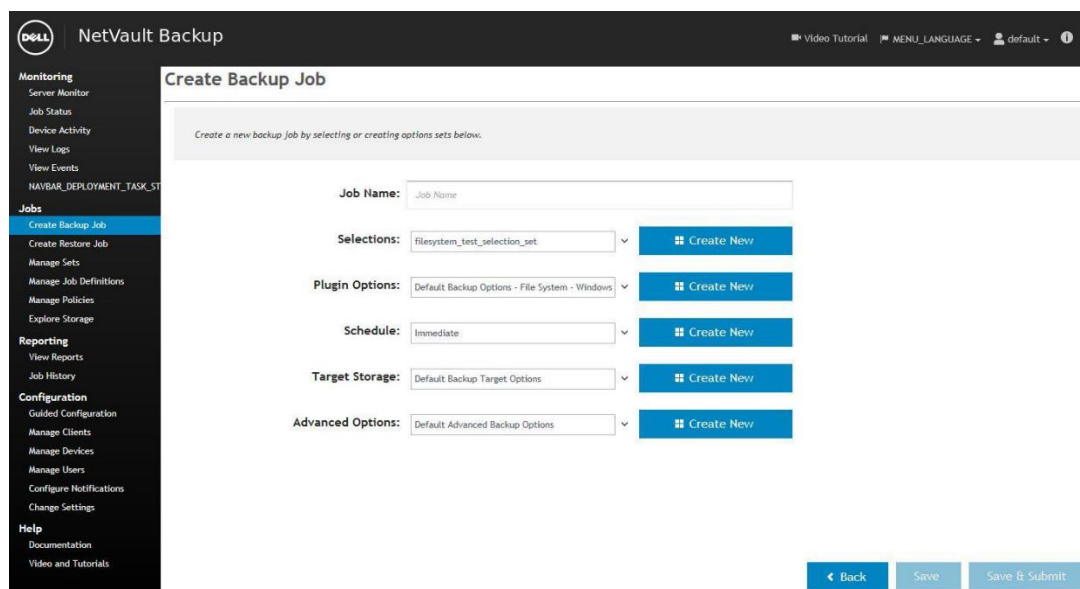


図 1 : NetVault 10 データベースのバックアップを開始するには、NetVault Backup 10 コンソールを起動し、[Create Backup Job] をクリック

2. [Selections] (セレクション) フィールドの右側にある [Create New] (新規作成) をクリックして、対象の NetVault Backup サーバを選択します。プラグインリストから「NetVault Databases」を開き、目的の NetVault Database ノードを選択します。最後に、セレクションウィンドウの右下にある [Save] (保存) をクリックして、セレクションセット名を入力します (図 2)。

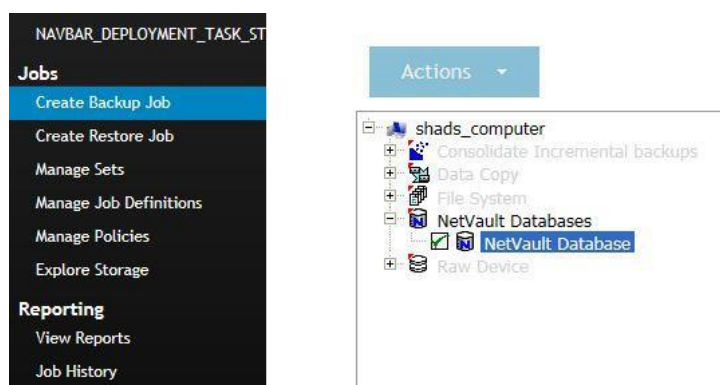


図 2 : セレクションウィンドウで NetVault Backup サーバを選択。次に、プラグインリストから「NetVault Databases」を開き、目的の NetVault Database ノードを選択



3. [Create Backup Jobs] (バックアップ ジョブ作成) ウィンドウで、[Schedule] (スケジュール)、[Target Storage] (ターゲット ストレージ)、[Advanced Options] (詳細設定) を設定し、必要なオプションを選択します。ほとんどのユーザはデフォルト設定を使用することになります。最後に、右下にある [Save & Submit] (保存 & 送信) を押してバックアップジョブを実行します (図 3)。

The screenshot shows the 'Create Backup Job' interface in NetVault Backup. The sidebar on the left lists various navigation options. The main content area has a title 'Create Backup Job' and a subtitle 'Create a new backup job by selecting or creating options sets below.' Below this, there are several rows of configuration options, each with a dropdown menu and a 'Create New' button:

- Job Name: Netvault_DB_Backup
- Selections: NVBU DB
- Plugin Options: Default Backup Options - NetVault Databases ...
- Schedule: Immediate
- Target Storage: Default Backup Target Options
- Advanced Options: Default Advanced Backup Options

At the bottom right, there are three buttons: 'Back', 'Save', and 'Save & Submit'.

図 3: 送信ボタンを押してバックアップジョブを実行

NetVault 10 データベースのバックアップが終了すれば準備完了です。これで、Windows 版または Linux 版 NetVault Backup サーバのアップグレードを開始することができます。

NetVault 9.2 データベースのバックアップ

NetVault Backup 11 へのアップグレードを始める前に、まず、お使いの NetVault 9.2 データベースをバックアップしておくことが重要です。データベースをバックアップするには、次の手順に従ってください。



1. NetVault Backup 9 コンソールを起動し、[Backup] (バックアップ) をクリックします (図 4)。

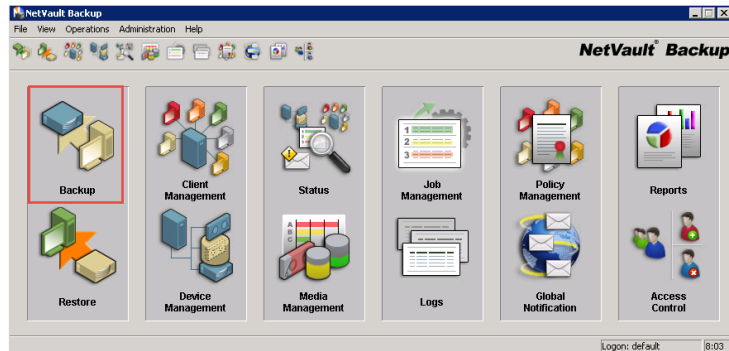


図 4 : NetVault 9.2 データベースのバックアップを開始するには、NetVault Backup 9 コンソールを起動し、[Backup] をクリック

2. [Selections] (選択) タブから対象の NetVault Backup サーバを選択します。プラグインリストから「NetVault Databases」を開き、目的の NetVault Database ノードを選択します (図 5)。

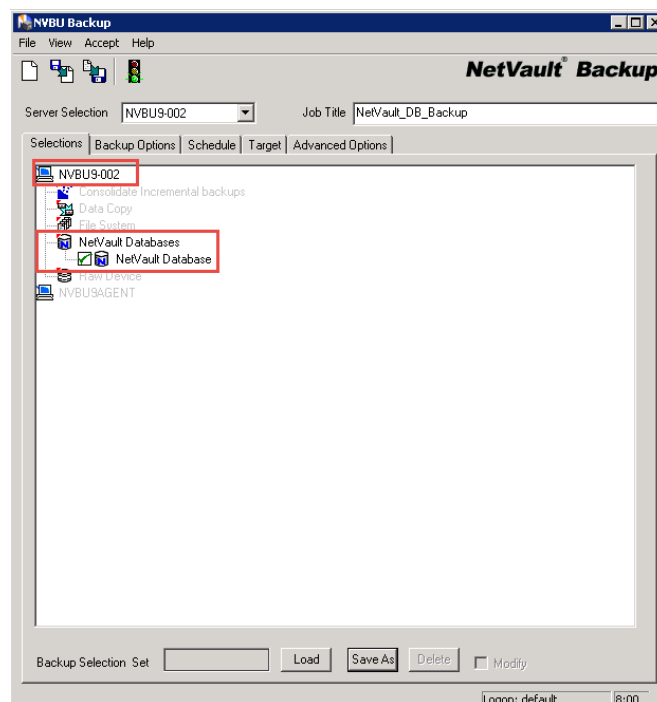


図 5 : [Selections] タブから対象の NetVault Backup サーバを選択。次に、プラグインリストから「NetVault Databases」を開き、目的の NetVault Database ノードを選択

3. [Backup Options] (バックアップオプション) タブから [Check Database Tables before Backup] (バックアップの前にデータベース・テーブルをチェックします) と [Compact database tables after backup] (バックアップの後にデータベース・テーブルを圧縮します) オプションをそれぞれ選択します (図 3)。これらのオプションを選択すると、データベース構造、エンティティ、参照の整合性を検証し、データベース内の未使用スペースを有効活用することができます。



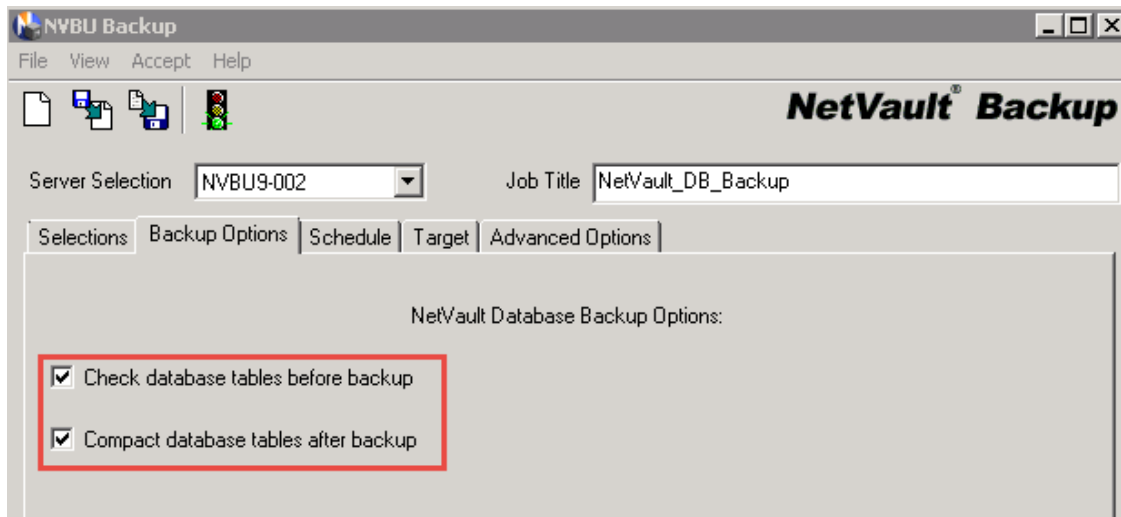


図 6： データベース構造／エンティティ／参照の整合性を検証し、データベース内の未使用スペースを有効活用する [Check Database Tables before Backup] と [Compact database tables after backup] オプションを選択

4. [Schedule] (スケジュール)、[Target] (ターゲット)、[Advanced Options] (詳細設定) をクリックして必要なオプションを設定します。バックアップジョブを実行するには、信号機アイコンを押します (図 7)。

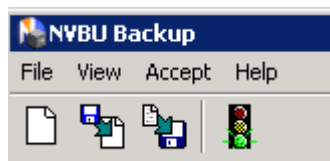


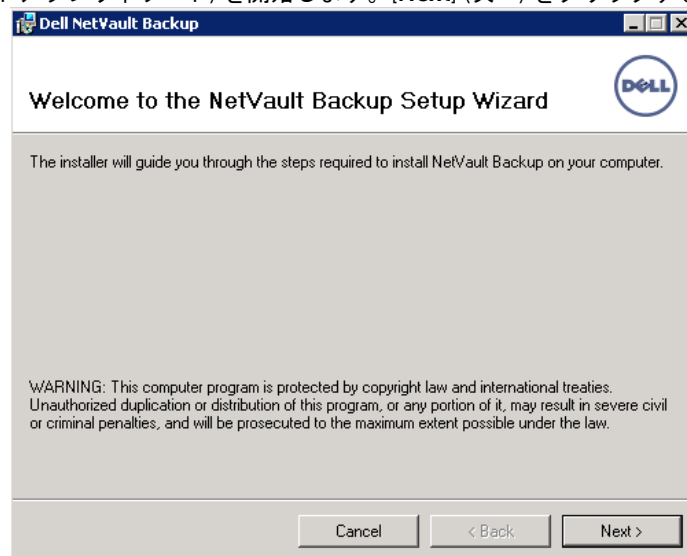
図 7： 信号機アイコンを押してバックアップジョブを実行

NetVault 9.2 データベースのバックアップが終了すれば準備完了です。これで、Windows 版または Linux 版 NetVault Backup サーバのアップグレードを開始することができます。

Windows 版 NetVault Backup サーバのアップグレード

1. <https://support.software.dell.com/netvault-backup/download-new-releases> から NetVault Backup 11 zip フォルダをダウンロードし、解凍します。解凍したフォルダ内で **Setup.exe** を実行し、[Setup

Wizard] (セットアップウィザード) を開始します。[Next] (次へ) をクリックするとセットアップが始ま



ります (図 8)。

図 8 : NetVault Backup Setup Wizard の開始

2. 使用許諾契約書に同意したら、[Next] (次へ) を押してインストールを続行します (図 9)。



図 9 : License Agreement への同意

3. 先に進む前に、まず NetVault データベースのバックアップを取得しておくよう促すプロンプト画面が現れます。前述のセクション「NetVault 10 データベースのバックアップ」に従ってバックアップが完了している場合は [Yes] (はい) を選択し、[Next] (次へ) を押します。

NetVault Backup 11 へのアップグレードを始める前に、まず、お使いの NetVault 10 データベースをバックアップしておくことが重要です。データベースをバックアップするには、次の手順に従ってください。

4. NetVault Backup 10 コンソールを起動し、[Create Backup Job] (バックアップ ジョブ作成) をクリックします (図 1)。



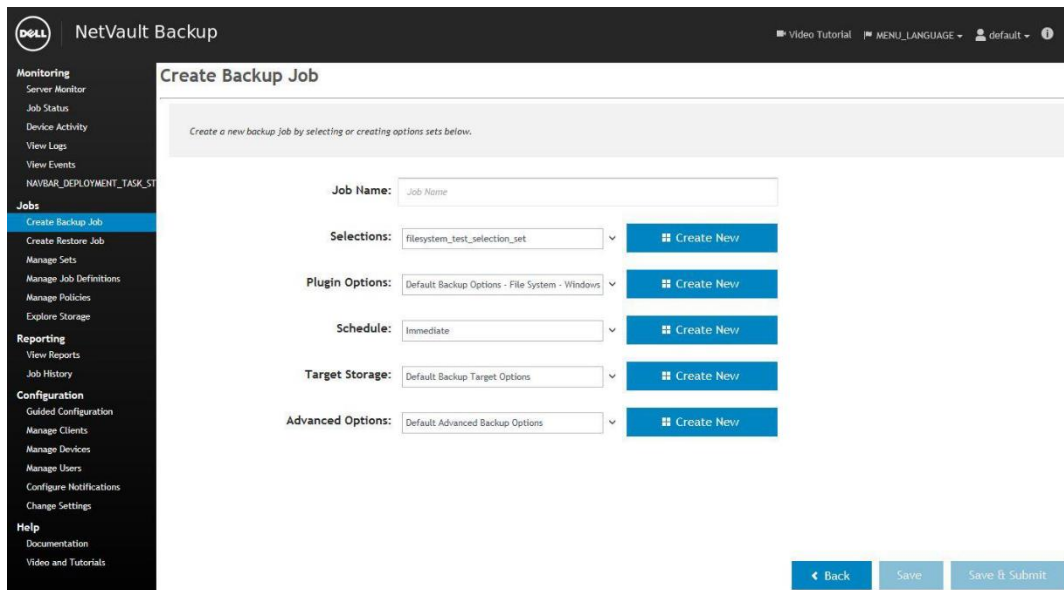


図 1 : NetVault 10 データベースのバックアップを開始するには、NetVault Backup 10 コンソールを起動し、[Create Backup Job] をクリック

5. [Selections] (セレクション) フィールドの右側にある [Create New] (新規作成) をクリックして、対象の NetVault Backup サーバを選択します。プラグインリストから「NetVault Databases」を開き、目的の NetVault Database ノードを選択します。最後に、当該セレクションウィンドウの右下にある [Save] (保存) をクリックして、セレクションセット名を入力します (図 2)。

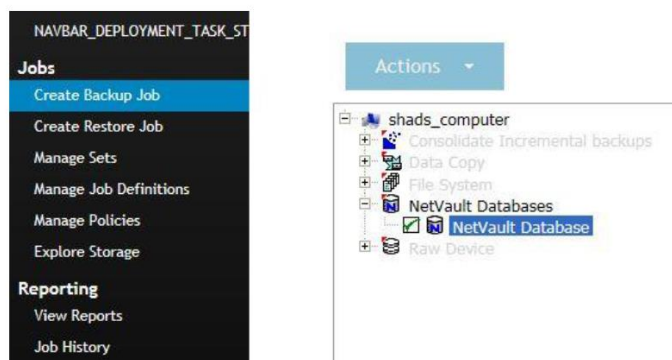


図 2 : セレクションウィンドウで NetVault Backup サーバを選択。次に、プラグインリストから「NetVault Databases」を開き、目的の NetVault Database ノードを選択

6. [Create Backup Jobs] (バックアップ ジョブ作成) ウィンドウで、[Schedule] (スケジュール)、[Target Storage] (ターゲット ストレージ)、[Advanced Options] (詳細設定) を設定し、必要なオプションを選択します。ほとんどのユーザはデフォルト設定を使用することになります。最後に、右下にある [Save & Submit] (保存 & 送信) を押してバックアップジョブを実行します (図 3)。

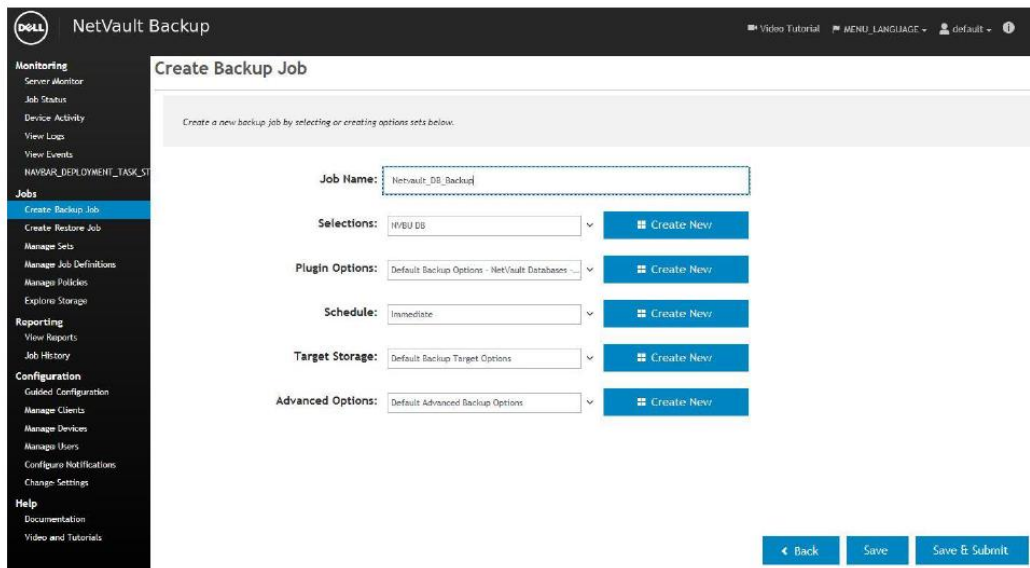


図 3：送信ボタンを押してバックアップジョブを実行

NetVault 10 データベースのバックアップが終了すれば準備完了です。これで、Windows 版または Linux 版 NetVault Backup サーバのアップグレードを開始することができます。

7. 前述のセクション「NetVault 9.2 データベースのバックアップ」に従ってバックアップが完了している場合は、[Yes] (はい) を選択して [Next] (次へ) を押します (図 10)。

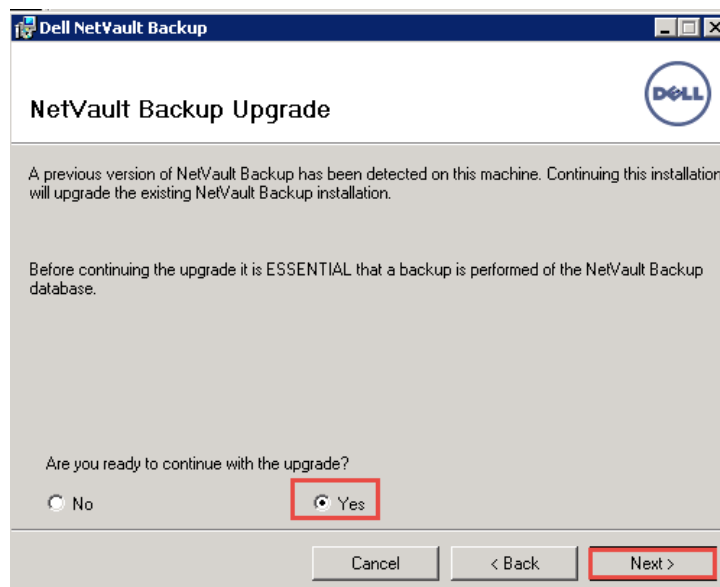


図 10：NetVault データベースがバックアップ済みであることを確認

8. NetVault の PostgreSQL データベース向けにスーパーユーザ (superuser) のパスワードを入力し、[Next] (次へ) を押します (図 11)。

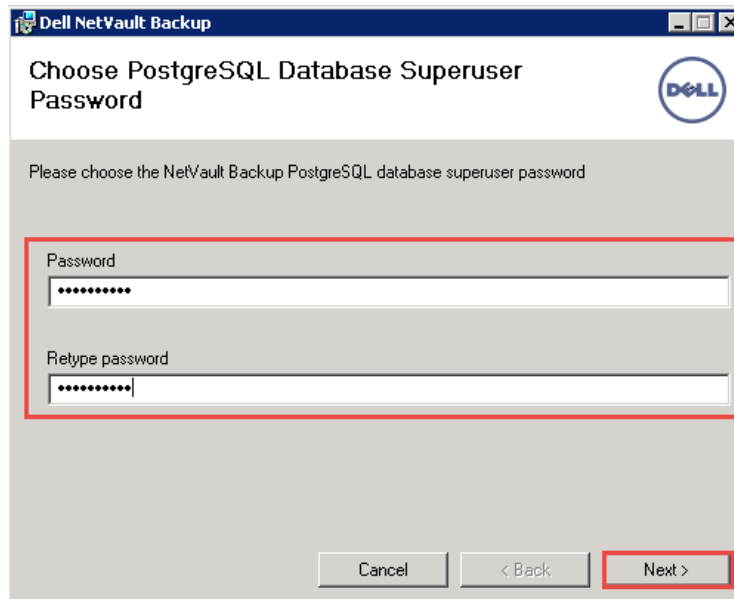


図 11 : NetVault の PostgreSQL データベース向けにスーパーユーザのパスワードを設定

9. [Next] (次へ) を押すと、NetVault Backup 11 のインストールが始まります (図 12)。

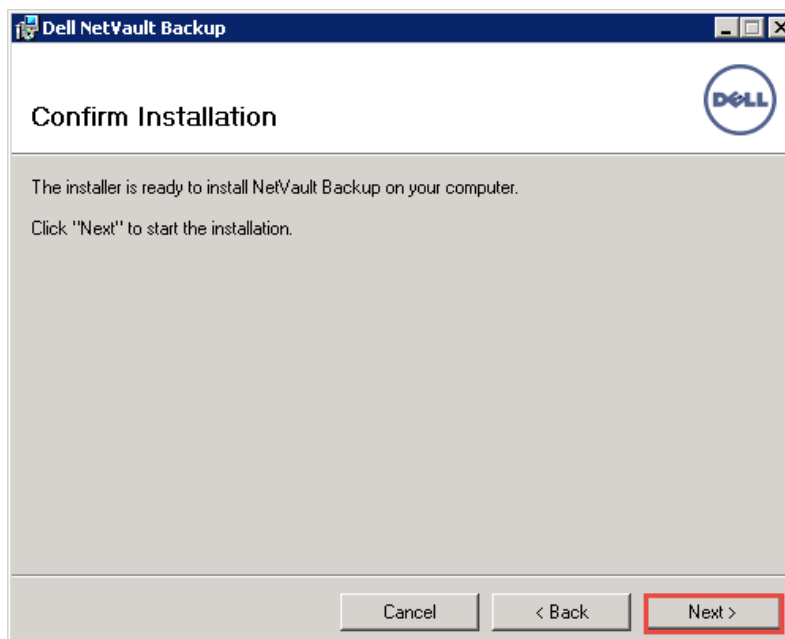


図 12 : NetVault Backup 11 のインストール開始

10. インストールが完了したら **[Close]** (閉じる) を押して、インストールウィザードを終了します (図 13)。

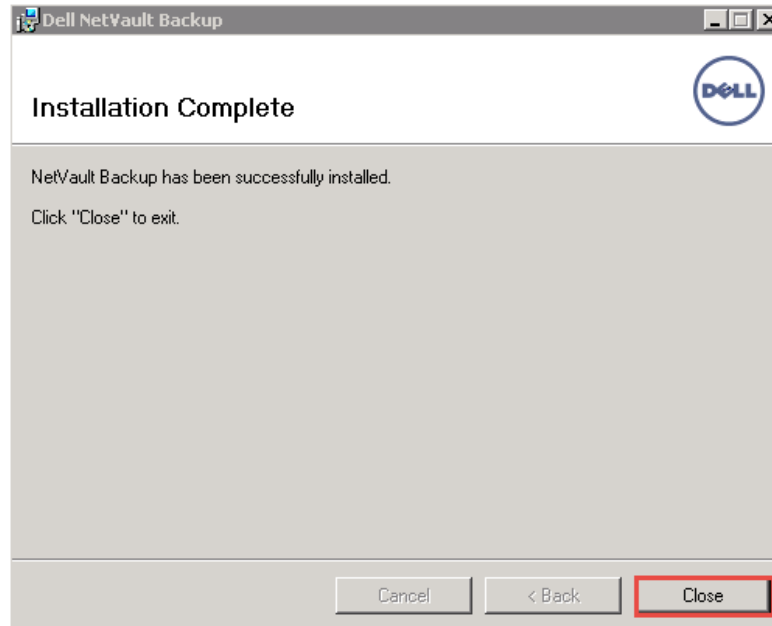


図 13 : インストールウィザードの終了

NetVault Backup サーバを NetVault Backup 11 にアップグレードした後は、ユーザ名に「**Default**」を使用し、パスワードは空白のままにしておくことで、新しい Web 対応コンソールにログインできます。詳細は後述の「NetVault Backup 11 WebUI への接続」セクションを参照してください。

NetVault クライアントのアップグレード手順については、後述の「Windows を対象とした NetVault Client のプッシュインストール」セクションを参照してください。

NetVault 11 には、Web GUI から直接エージェントインストールをプッシュできる新機能が加わりました。これを行うには、NetVault Server が既にインストール済みで、プッシュ先に接続されている必要があります。NetVault サーバの接続方法は、NetVault WebUI の紹介セクションを参照してください。

- [Guided Configuration] (ガイド付き設定) を選択します。
- [Install Software / Add Clients] (ソフトウェアのインストール/クライアントの追加) を選択します。
- [Install NetVault software on remote machines] (リモート・マシンに NetVault ソフトウェアをインストール) ラジオボタンを選択します。

NetVault がエージェントをリモートインストールするには、パッケージストアやインストールパッケージへのアクセス場所を指定する必要があります。

- [Manage Stores] ボタンを押します。
- ストア名と、その場所への UNC パスを指定します。
- 指定の場所にアクセスが許可されているユーザ名とパスワードを入力します。

本例では、ローカルフォルダの場所と、ローカル管理者／パスワードを使用しました。

- [Done] (終了) を押すと、指定したパッケージストアが追加されます。

次に、導入対象のパッケージを選択する必要があります。

- [+ Add NetVault core package] をクリックし、「clientpackages」を選択したら [OK] を押します。

これで導入対象となる NetVault コアパッケージが選択されました。

- [Next] (次へ) を押して続行します。

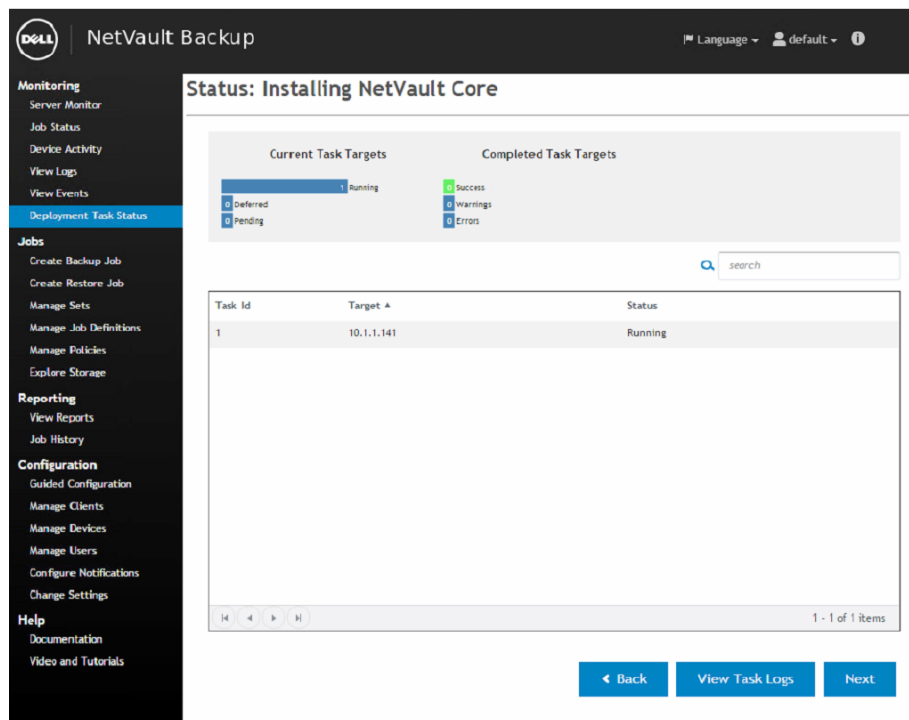
NetVault では、次のいずれかの方法でエージェントの導入先マシンを指定することができます。

1. FQDN (完全修飾ドメイン名) か IP を使用
2. Active Directory から指定
3. ファイルから指定
4. 既存の NetVault クライアントから指定
5. 既存の NetVault クライアントインストールをアップグレード (チェックボックス)

上記のいずれかの方法で、NetVault エージェントの導入先マシンを選択します。

- マシンを選択したら、[Verify] ボタンを押してこの導入に問題がないことを確認します。
- [Install Software / Add Clients] (ソフトウェアのインストール/クライアントの追加) をクリックして、NetVault エージェントのインストールを開始します。





Windows 版 NetVault クライアントのアップグレードについては、後述のセクションを参照してください。

Linux 版 NetVault Backup サーバのアップグレード

アップグレードプロセスを開始するには、次から最新の NetVault Backup 11 ファイルをダウンロードしてください：<https://support.software.dell.com/netvault-backup/download-new-releases>

1. root レベルの権限を持つアカウントでシステムにログオンします。
2. インストール CD を使用する場合はドライブに CD を入れ、そのドライブをマウントします。インストールファイルが保存されているディレクトリに移動します：

```
cd /cdrom/netvault/<LinuxX86Hybrid または LinuxX86Pure64>/netvault
```

自動マウント処理がエラー（「bash: ./install: /bin/sh bad interpreter: Permission denied」）を報告した場合は、下例のとおり **noexec** マウントオプションを指定せずにドライブを手動でマウントします。

```
umount /cdrom/
mount -t iso9660 /dev/cdrom /cdrom
```

3. ダウンロードしたパッケージを使用する場合は、標準提供のツールを使って解凍し、インストールファイルを抽出します。ターミナルセッションを開始して、抽出したファイルが保存されているディレクトリに移動します。
4. 次のコマンドを実行してインストーラを起動します。

```
./install
```



5. インストーラの指示に従ってインストール処理を進めます。まず、NetVault Backup インストールに使用する言語を選択します。

- English
- Japanese EUC
- Chinese Simplified
- Korean
- French
- German

英語 (English) を選択する場合は、<1> または <Enter> キーを押します。他の言語を選択する場合は、対応する番号のキーを押します。

6. 使用許諾契約の内容について、確認と同意が求められます。

- <y> キー：使用許諾契約に同意してインストールを続行するには、これを選択します。このキーを押した場合、契約内容は表示されません。
- <n> キー：使用許諾契約に同意しない場合は、これを選択します。これを選択した場合、インストールプロセスはここで中止されます。
- <d> キー：契約内容が表示されます。これがデフォルト設定です。<d> キーを押すと、契約内容がいくつかのパートに分れて表示されます。どこまで読み進んだか調べるには、画面下部の % を確認してください。次のパートを表示するには <Enter> キーを押します。

7. システムが次のメッセージを表示します。

Detected NetVault Backup Server installed in /user/netvault. This program will upgrade your existing installation of NetVault. Are you sure you want to continue?(y q).

NetVault Backup サーバのアップグレードを開始するには、<y> キーを押します。

8. システムが次のメッセージを表示します。

WARNING!!! It is ESSENTIAL that a NetVault Database backup has been carried out BEFORE upgrade. Are you sure you want to continue?(y q).

前述のセクション「NetVault 10 データベースのバックアップ」に従ってバックアップが完了している場合は、<y> キーを押して続行します。

NetVault Backup 11 へのアップグレードを始める前に、まず、お使いの NetVault 10 データベースをバックアップしておくことが重要です。データベースをバックアップするには、次の手順に従ってください。

9. NetVault Backup 10 コンソールを起動し、[Create Backup Job] (バックアップ ジョブ作成) をクリックします (図 1)。



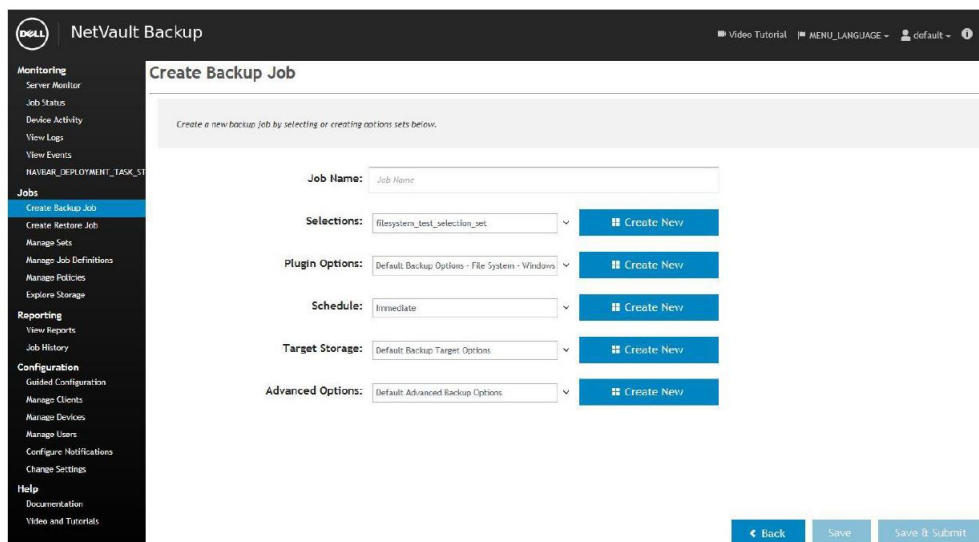


図 1 : NetVault 10 データベースのバックアップを開始するには、NetVault Backup 10 コンソールを起動し、[Create Backup Job] をクリック

10. [Selections] (セレクション) フィールドの右側にある [Create New] (新規作成) をクリックして、対象の NetVault Backup サーバを選択します。プラグインリストから「NetVault Databases」を開き、目的の NetVault Database ノードを選択します。最後に、当該セレクションウィンドウの右下にある [Save] (保存) をクリックして、セレクションセット名を入力します (図 2)。

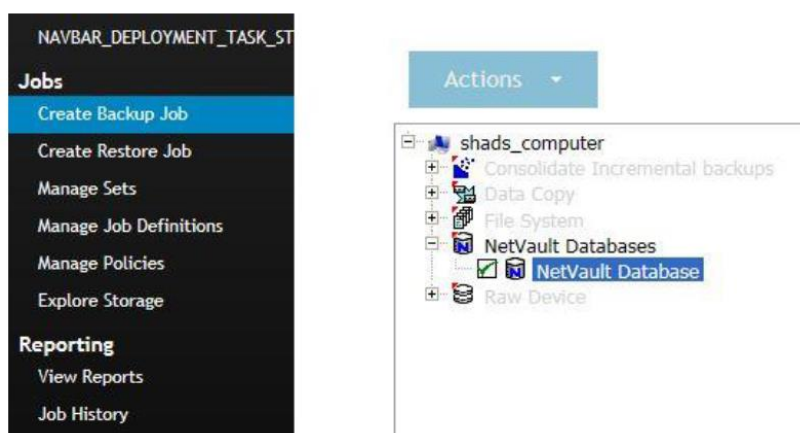


図 2 : セレクションウィンドウで NetVault Backup サーバを選択。次にプラグインリストから「NetVault Databases」を開き、目的の NetVault Database ノードを選択

11. [Create Backup Jobs] (バックアップ ジョブ作成) ウィンドウで、[Schedule] (スケジュール)、[Target Storage] (ターゲットストレージ)、[Advanced Options] (詳細設定) を設定し、必要なオプションを選択します。ほとんどのユーザはデフォルト設定を使用することになります。最後に、右下にある [Save & Submit] (保存 & 送信) を押してバックアップジョブを実行します (図 3)。

The screenshot shows the 'Create Backup Job' page in the NetVault Backup web interface. The sidebar on the left lists various navigation options. The main content area has a title 'Create Backup Job' and a subtitle 'Create a new backup job by selecting or creating options sets below.' Below this, there are several configuration fields: 'Job Name' (with a text input), 'Selections' (a dropdown menu), 'Plugin Options' (a dropdown menu), 'Schedule' (a dropdown menu), 'Target Storage' (a dropdown menu), and 'Advanced Options' (a dropdown menu). Each dropdown menu has a 'Create New' button next to it. At the bottom right of the form, there are three buttons: 'Back', 'Save', and 'Save & Submit'.

図 3：送信ボタンを押してバックアップジョブを実行

NetVault 10 データベースのバックアップが終了すれば準備完了です。これで、Windows 版または Linux 版 NetVault Backup サーバのアップグレードを開始することができます。

前述のセクション「NetVault 9.2 データベースのバックアップ」に従ってバックアップが完了している場合は、<y> キーを押して続行します。まだバックアップしていない場合は、<q> キーを押して中断し、NetVault データベースをバックアップしてください。

12. NetVault の PostgreSQL データベース向けにスーパーユーザ (superuser) のパスワードを入力し、確認のため再入力します。

これでインストール処理が始まります。インストールが完了すると、新しい Web インタフェースを通して NetVault にアクセスできるようになります (後述の「NetVault Backup 11 WebUI への接続」セクションを参照)。

Linux プラットフォームへの詳細なインストール手順や、その他のオペレーティングシステムを対象としたインストールについては、『NetVault Backup インストレーションガイド』を参照してください。

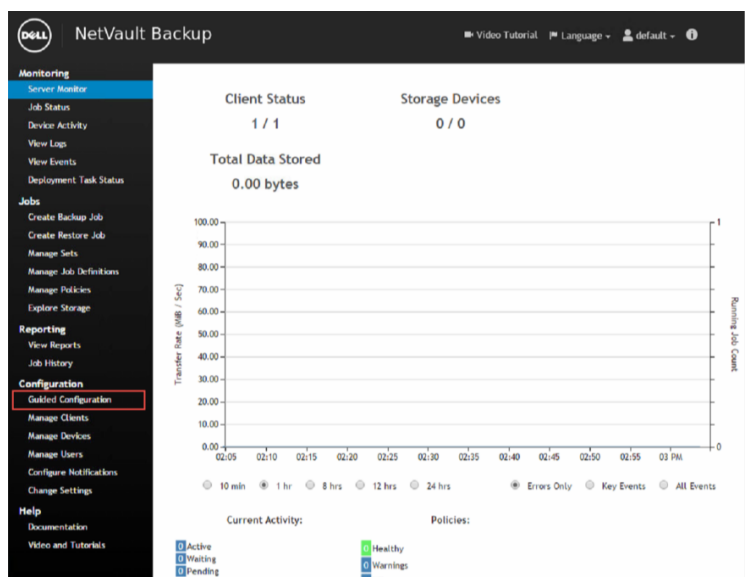
Linux 上の NetVault クライアントをアップグレードする方法は、後述の「Linux を対象とした NetVault クライアントのアップグレード」を参照してください。

NetVault クライアントのアップグレード

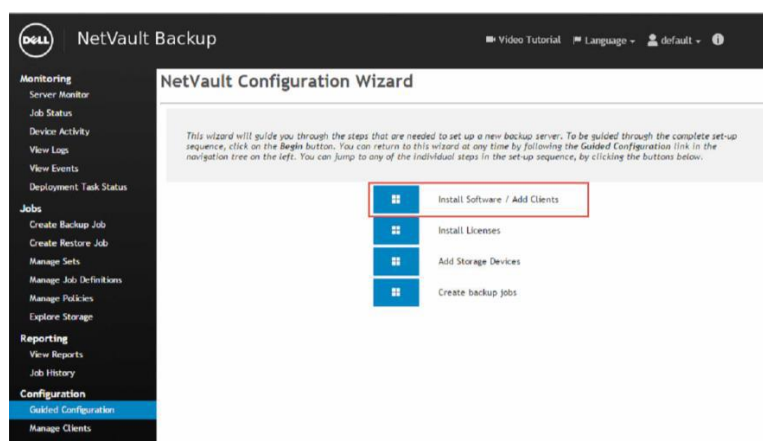
Windows を対象とした NetVault Client のプッシュインストール

NetVault 11 には、Web GUI から直接エージェントインストールをプッシュできる新機能が加わりました。これを行うには、NetVault Server が既にインストール済みで、プッシュ先に接続されている必要があります。NetVault サーバの接続方法は、NetVault WebUI の紹介セクションを参照してください。

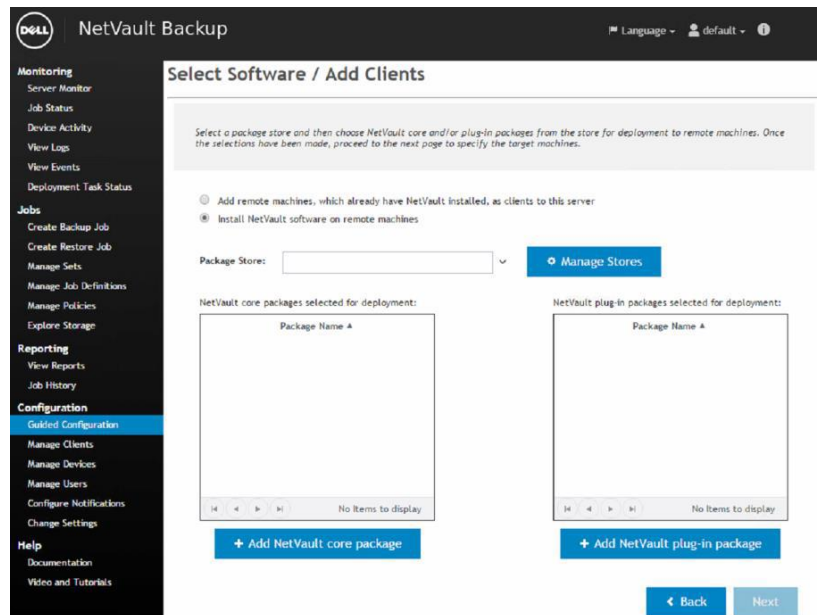
- [Guided Configuration] (ガイド付き設定) を選択します。



- [Install Software / Add Clients] (ソフトウェアのインストール/クライアントの追加) を選択します。



- [Install NetVault software on remote machines] (リモート・マシンに NetVault ソフトウェアをインストール) ラジオボタンを選択します。

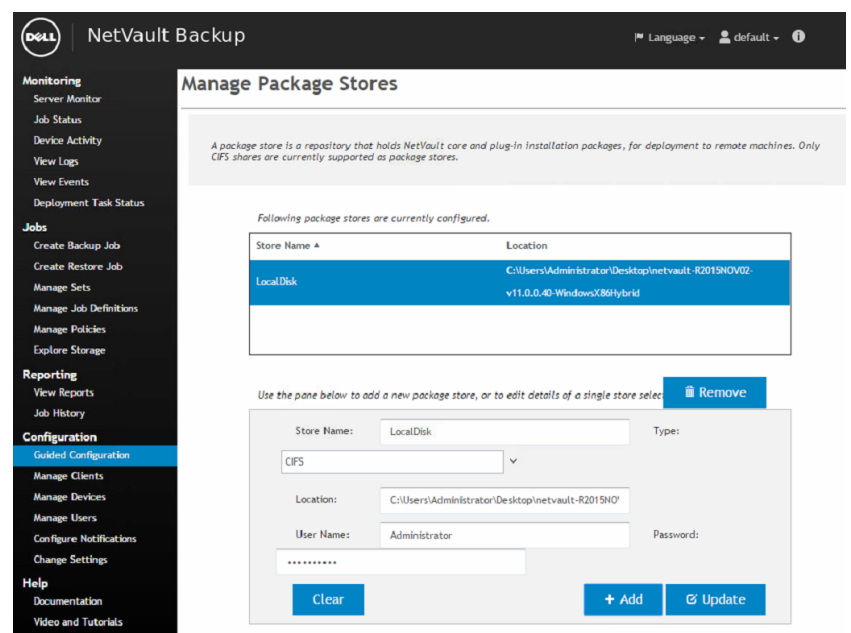


NetVault がエージェントをリモートインストールするには、パッケージストアやインストールパッケージへのアクセス場所を指定する必要があります。

- [Manage Stores] ボタンを押します。
- ストア名と、その場所への UNC パスを指定します。
- 指定の場所にアクセスが許可されているユーザ名とパスワードを入力します。

本例では、ローカルフォルダの場所と、ローカル管理者／パスワードを使用しました。

- [Done] (完了) を押すと、指定したパッケージストアが追加されます。



次に、導入対象のパッケージを選択する必要があります。

- [+ Add NetVault core package] をクリックし、「clientpackages」を選択したら [OK] を押します。



これで導入対象となる NetVault コアパッケージが選択されました。

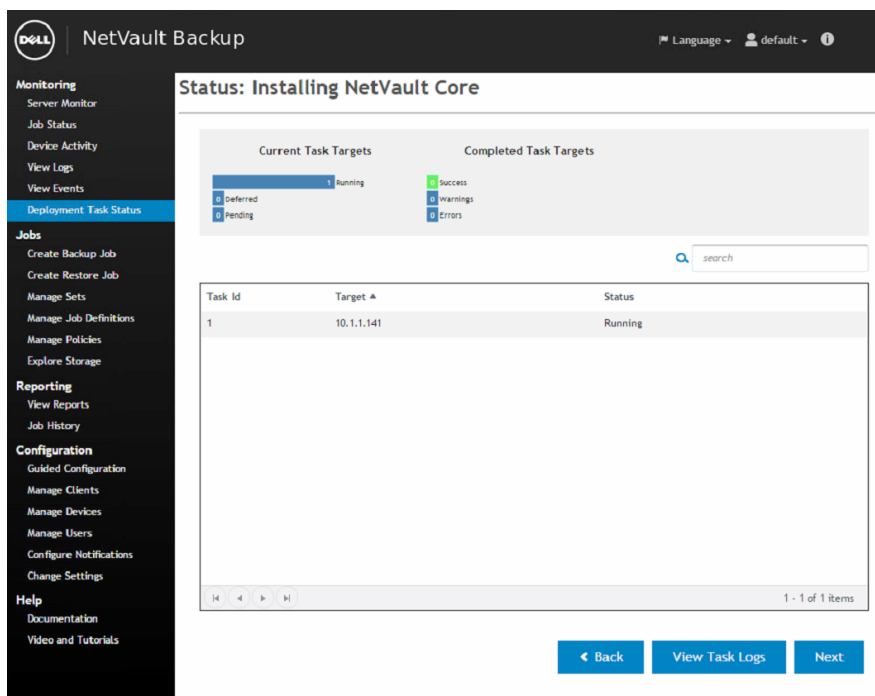
- [Next] (次へ) を押して続行します。

NetVault では、次のいずれかの方法でエージェントの導入先マシンを指定することができます。

1. FQDN (完全修飾ドメイン名) か IP を使用
2. Active Directory から指定
3. ファイルから指定
4. 既存の NetVault クライアントから指定
5. 既存の NetVault クライアントインストールをアップグレード (チェックボックス)

上記のいずれかの方法で、NetVault エージェントの導入先マシンを選択します。

- 対象のマシンを選択したら、[Verify] ボタンを押してこの導入に問題がないことを確認します。
- [Install Software / Add Clients] (ソフトウェアのインストール/クライアントの追加) をクリックして、NetVault エージェントのインストールを開始します。



Windows を対象とした NetVault クライアントのアップグレード

Windows 版 NetVault クライアントの場合、ローカルインストールのアップグレードはもちろん、Microsoft Active Directory や Dell KACE などのオプションを通したリモートプッシュでのアップグレードにも対応しています。ここでは、ローカルインストールされた NetVault クライアントについて説明します。

1. 英語でインストール手順を開始する場合は、NetVault クライアントマシン上で **Setup.exe** を実行します。また、その他の言語を選択する場合は **Install.exe** を実行します。[Next] (次へ) を選択して、アップグレードを進めます (図 14)。

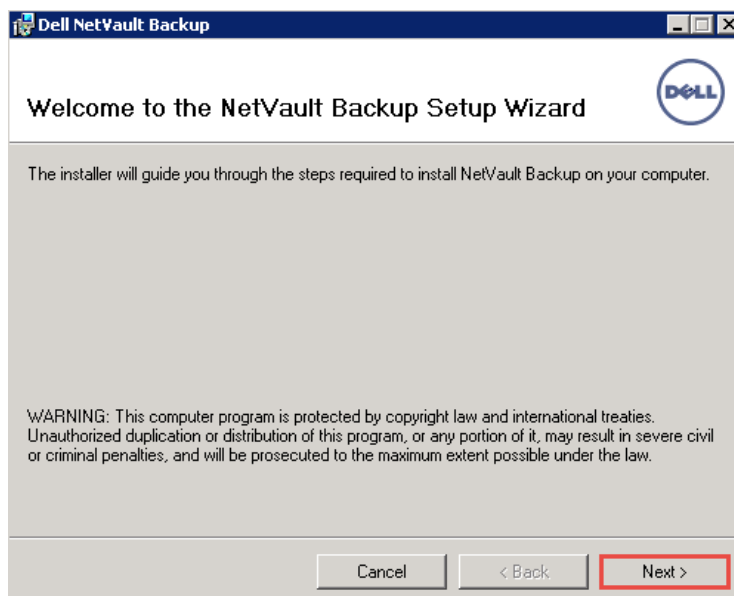


図 14 : クライアントのアップグレード開始

[License Agreement] (使用許諾契約) に同意したら、[Next] (次へ) を押します (図 15)。

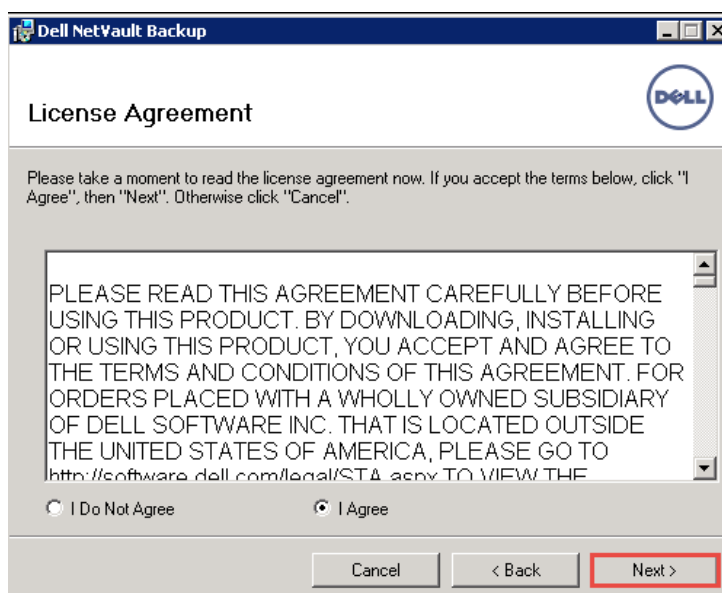


図 15 : 使用許諾契約の確認



2. アップグレードの開始準備が整ったら [Yes] (はい) を選択し、[Next] (次へ) を 2 回クリックするとアップグレード処理が始まります (図 16)。

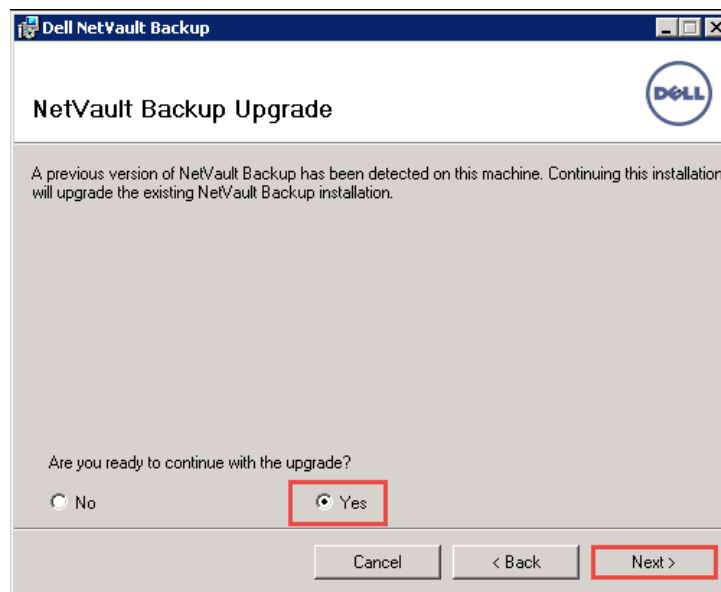


図 16 : アップグレード続行の確認

3. インストールが完了したら、[Close] (閉じる) を押してインストールウィザードを終了します (図 17)。

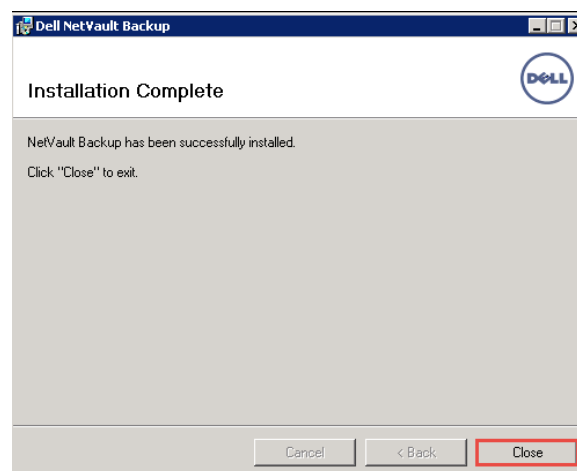


図 17 : インストールウィザードの終了

Linux を対象とした NetVault クライアントのアップグレード

1. root レベルの権限を持つアカウントでシステムにログインします。
2. インストール CD を使用する場合は、ドライブに CD を入れ、そのドライブをマウントします。インストールファイルが保存されているディレクトリに移動します：

```
cd /cdrom/netvault/<LinuxX86Hybrid または LinuxX86Pure64>/netvault
```

自動マウント処理がエラー（「bash:./install:/bin/sh bad interpreter:Permission denied」）を報告した場合は、下例のとおり、**noexec** マウントオプションを指定せずにドライブを手動でマウントします。

```
umount /cdrom/  
mount -t iso9660 /dev/cdrom /cdrom
```

3. ダウンロードしたパッケージを使用する場合は、標準提供のツールを使って解凍し、インストールファイルを抽出します。ターミナルセッションを開始し、抽出したファイルが保存されているディレクトリに移動します。
4. 次のコマンドを実行してインストーラを起動します。 `./install`
5. インストーラの指示に従ってインストール処理を進めます。まず、NetVault Backup インストールに使用する言語を選択します。
 - English
 - Japanese EUC
 - Chinese Simplified
 - Korean
 - French
 - German

英語 (English) を選択する場合は、<1> または <Enter> キーを押します。他の言語を選択する場合は、対応する番号のキーを押します。

6. 使用許諾契約の内容について、確認と同意が求められます。
 - <y> キー：使用許諾契約に同意してインストールを続行するには、これを選択します。このキーを押した場合、契約内容は表示されません。
 - <n> キー：使用許諾契約に同意しない場合は、これを選択します。これを選択した場合、インストールプロセスはここで中止されます。
 - <d> キー：契約内容が表示されます。これがデフォルト設定です。<d> キーを押すと、契約内容がいくつかのパートに分れて表示されます。どこまで読み進んだか調べるには、画面下部の % を確認してください。次のパートを表示するには <Enter> キーを押します。
7. システムが次のメッセージを表示します。

```
Detected NetVault client installed in /usr/netvault. This program will upgrade your existing  
installation of NetVault. Are you sure you want to continue?(y q)
```

NetVault クライアントのアップグレードを開始するには、<y> キーを押します。



NetVault データベースの保護

インストールが完了すると、NetVault クライアントのバージョンは 11 になります。推奨事項として、NetVault Backup データベースは必ずバックアップしておくよう強くお勧めします。

NetVault Backup 11 WebUI への接続

1. NetVault WebUI を起動するには、お使いの Web ブラウザから次のアドレスに接続する方法が最も簡単です : <https://localhost:8443/index.html>
2. 本サイトのセキュリティ証明書が信頼された証明書リストに追加されるまでは、下図のような警告メッセージが現れます。



図 18 : 本サイトのセキュリティ証明書が信頼された証明書リストに追加されるまで表示される警告画面

[Proceed anyway] (このまま続行) ボタンを押して NetVault WebUI に接続します。

3. NetVault Backup には、「admin」と「default」という 2 つのユーザアカウントが事前定義されています。両方のユーザアカウントには、すべての権限が与えられています。これらのアカウントは削除することができず、また、デフォルトではパスワードが割り当てられていません。

ここではユーザ名に「default」を使用し、パスワードフィールドには何も入力せずにログインします (図 19)。

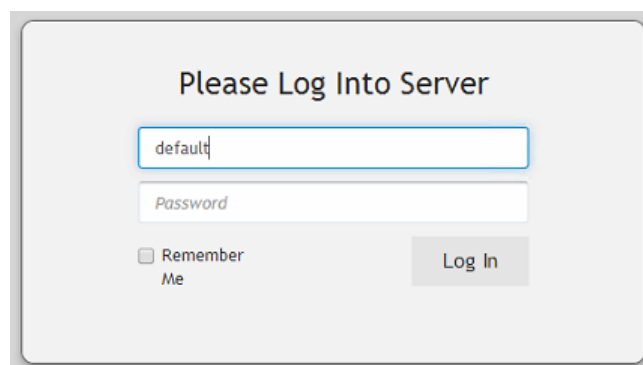


図 19 : ユーザ名に「default」を指定し、パスワードは空白のままログイン

4. NetVault はデフォルト設定の場合、[Server Monitor] (サーバーモニタ) 画面を初期表示します (図 20)。完全な新規インストールでは、[Client Status] (クライアント ステータス) に「1/1」、[Storage Devices] (ストレージ デバイス) に「0/0」と表示されます。これは、NetVault Backup サーバから管理されているクライアントが一台あり (=このサーバ自身)、接続されているストレージデバイスが無いことを意味します。

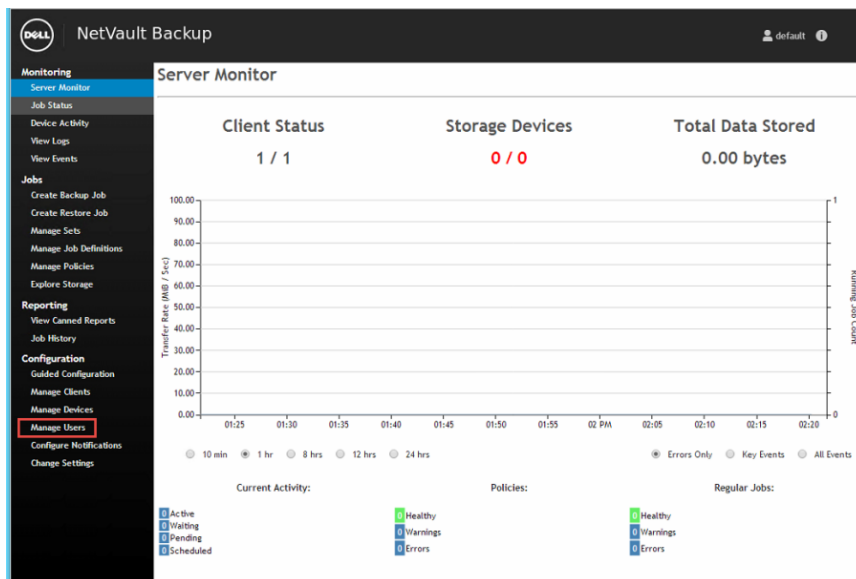


図 20 : Server Monitor 画面

default アカウントにパスワードを設定する方法

default アカウントにパスワードを設定するには、次の手順に従ってください。

1. 左パネル内にある [Configuration] (設定) セクションから [Manage Users] (ユーザー管理) をクリックします。「default」を選択し、右下の [Edit] (編集) をクリックします (図 21)。

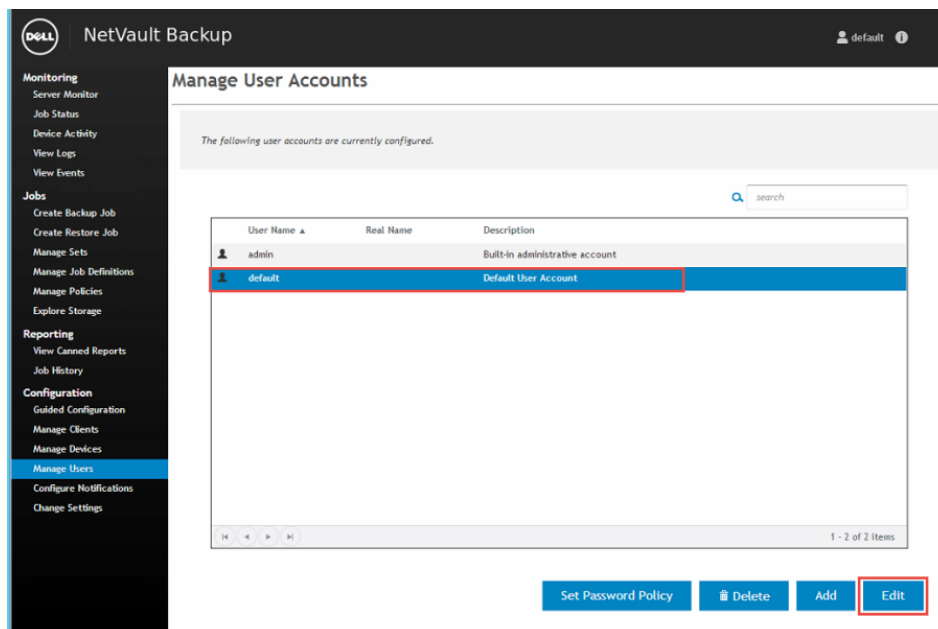


図 21 : [Manage User Accounts] 画面から、該当するユーザアカウントを選択

2. 編集用画面が開きます。ここからパスワードやアカウントの詳細、たとえばユーザ名、電子メールアドレス、グループメンバーシップ、権限、その他、ユーザアカウントに関わるすべての情報が容易に編集できます (図 22)。先に進む前に、少々時間を割いて各オプションを確認するようお勧めします。選択したアカウントのパスワードを編集するには、[Password] (パスワード) をクリックします。

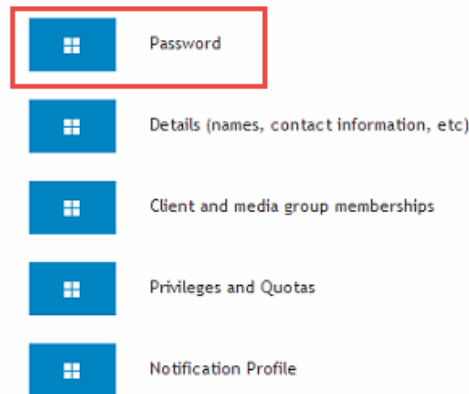


図 22 : ユーザアカウントの編集オプション

3. [Current Password] (現在のパスワード) ボックスは空欄にしたまま、このアカウント用に新しいパスワードを入力し、確認のため再入力します。設定が完了したら右下にある [Done] (終了) を押して先に進みます。

備考 : 「default」ユーザは、事前作成される 2 つのデフォルトアカウントの 1 つなので、パスワードなし (空白) にリセットする選択も可能です。

Editing Password for User 'default'

Enter the details below to change the password for this user.

☐ Reset password to blank

Current Password:

New Password:

Confirm Password:

図 23 : アカウントのパスワード設定

4. このユーザに対する編集を終了し、[Manage User Accounts] (ユーザアカウント管理) 画面に戻るには、[Done] (終了) を再度押します (図 21)。



その他のユーザ管理オプション

新しいユーザを作成するには、[Manage User Accounts] (ユーザアカウント管理) 画面の右下から **[Add]** (追加) をクリックします。ユーザアカウント管理の詳細は、『NetVault Backup 11 アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

まとめ

有用な強化機能を豊富に備えた NetVault Backup バージョン 11 へのアップデートは、わずか数分で完了します。是非アップグレードして、データおよびアプリケーション保護のさらなる効率化にお役立てください。

詳細の参照先：

- Dell NetVault ドキュメンテーション：support.software.dell.com/netvault-backup/release-notes-guides
- セールスおよび価格情報：software.dell.com/products/netvault-backup/
- ツイッター：[@DellDP](https://twitter.com/DellDP)
- フェイスブック：facebook.com/delldataprotection

Dell Software について

テクノロジーのパワーを通してお客様の可能性を広げる Dell Software は、使いやすく経済的でスケーラブルなソリューションを通して IT をシンプルにし、リスクを軽減します。Dell Software ポートフォリオはお客様の「5 大ニーズ」、すなわち、データセンター／クラウド管理、情報管理、モバイルワーカー管理、セキュリティ、データ保護に対応します。これらのソフトウェアにデルのハードウェアとサービスを組み合わせれば、お客様の効率性と生産性が飛躍的に向上し、業績を加速させることができます。<http://www.dellsoftware.com>

